

## 2025年1月4日(土) 勉強会

※この日は、休憩前の前半は、今年からの新しい『7ヶ国への祈り』のプログラムの公開リハーサルを行ないました。

★♥☆♥★♥☆♥★♥☆♥★♥☆♥★

○それでは、1時55分を回りましたので、再開したいと思います。『新しい時代の意識に慣れるために』ということで、(私のいのちの奥から) 出てきましたのが、私たちの生命の源、白光では「宇宙神」って呼んでますね。

○どういう呼び方をして、呼んでいただいてもいいんですけれども、(私たちのいのちを) 生命の大元のほうに、元へ元へ元へ元へ、たどってゆきますと、宇宙の中心の意識に帰り着きます。その宇宙の中心の意識が、もう数知れない星が散りばめられているこの大宇宙の中心にあります。

○この太陽系のように、中心の恒星があって、恒星の周りを惑星が回ってるっていう、いわゆる一つの銀河系がありますね。大宇宙の中心の銀河系から始まって、子供の銀河系、孫の銀河系、そのさらに子供の銀河系というように広がっている。

○私たちが宇宙と言っている宇宙は、一体どれぐらいの広さなのかわからないぐらいになっています。星の数も、地球の人間の頭ではわからないぐらいにあります。

○そういう宇宙を創った大元の意識があるんですね。その宇宙の歴史をたどっていきますと、初め(最初)は、宇宙空間がありませんでした。その宇宙空間がなかったときには、何があったかといいますと、宇宙の中心の意識だけがそこにありました。

○このことは、『神と人間』にも書いてありますね。宇宙の大元の意識が、あるとき忽然とその光を放ったということが書いてあります。

○日本に伝わる古神道では、それを「まるちょん」と呼ばれる図で書き表されています。丸の中に、ちょんって入っている絵があるんですけども、絵で表現されています。

○これが音魂の話で言いますと、無声の「ス」、「さしすせそ」の「す」ではなくて、「スウ」という音ですね。この無声の「スウ」という音が発生するところから始まって、「スゥ——————」と続き、やがて「う」の音魂になりました。

○その後、「うおあえい」か「うえあおい」か、順番はわかりませんが、母音が広がっていって、宇宙空間が広がり、そこに恒星や惑星など、様々なものが創されました。

○星の関連でいえば、宇宙の中心の恒星が出来て、その恒星が惑星を産み、その惑星は恒星の周りを回り出し、一つの銀河系が出来た。

○それぞれの惑星には、水や大地、空気、火などの要素ができて、やがて命が生まれていった。その命は、地球でいえば、アメーバのようなものから始まって、水の中の生物ができて、その内の一部は陸地に上がって陸の生物となり、そのうちの一部は羽根で空を飛ぶ動物になってというふうに、いろいろな生物に分かれていきました。

○どうして宇宙の中心の意識は、そういうふうに宇宙空間を作ったのかという話が、『神と人間』に書いてありますね。宇宙神はご自身が楽しまれるために、ご自身を見るものと見られるものに分けられた、と。

○前置きが長くなつたんですけども、私たちが神聖復活をすると、自分を奥から見ている意識と、見られている肉体側の意識を、同時に認識することができるようになります。

○でも、この世の次元が靈的な波動圏に入るまでの間は、時々は肉体に入り込んでしまって、奥から見ている自分を忘れる瞬間もあります。

○多分、もう皆さん、実際に今、そういう意識状態で生きておられるんだと思うんです。客観的に奥から俯瞰するような眼で、肉体の自分を観察している自分と、肉体側にいて、体が自分だと思って生きてる自分と両方あって、生きていらっしゃるんだと思うんです。

○これがだんだんその状態に慣れてゆきますと、いつも両方の自分を認識できるという状態になります。

○見ている自分というのは、奥の奥から、命の奥から、この表面の顕在意識と肉体のこの体を見ている。これは、意識があるからできるんです。

○この奥から見ている自分が当たり前になりますと、知らない間に、守護霊の意識も、守護神の意識も、自分の表面意識と重なり合って一つになって、守護霊様の考えていることイコール私たちの考え、守護神様の考えていることイコール私たちの考え、というふうになってきます。

○もうすでになっておられる方もいらっしゃる。私がいろいろお付き合いしている方の中に、何人もいらっしゃいます。もうそれをご自分のものにされている。

○それを自覚しているか、自覚していないかは別なんですね。「この方は奥の自分を顕わして生きておられるな」と私が思って見ても、本人はそう思っていない場合があります。

○私たちはこれから、みんなが、見ている自分と見られている自分が、同時存在した状態の意識状態になっていきます。

○それを自分のものにするために、2023年5月の初めぐらいに、この『神聖で繋がり合う日』というプログラムが始まったと記憶しています。そういう内面的な自分の意識のなかの気づきを、何とか共有できないものだろうかというところから、今に至る『神聖で繋がり合う日』のプログラムが始まりました。

○数日前に年が明けて、実際に2025年に入ってみて思うことは、「もう本当にそのときになったんだな」ということです。

○「そのとき」というのは、私たちが神聖の想念で言動行為を行ない、神聖を当たり前のように表現して生きる時代に入ったのだなということを、年が明けて、改めて感じていました。

○それで土曜日の夜、基本的に土曜日の夜に、今まで続けてきた『神聖で繋がり合う日』の内面的な話のプログラムから、今年は、大自然や生きとし生けるものや、世界中の人たちと実際に繋がり合っているというその意識を、より確かなものにしてゆくプログラムに変えてゆこうと思っております。

○それで今夜は、今いらっしゃる永野さんとか、行天さんとか、他の方々に表に出ていただいて、私は裏方に引っ込んで、これから『神聖で繋がり合う日』のプログラムを行なってゆこうと思います。

○内面的な話というのは、今後は、勉強会に限定しようと思っております。もうそんなに回数は必要ない。もう実際に行ない顕わす段階に入っている。

○毎日の日常生活の中で、一瞬一瞬、一秒一秒、自分がどういう意識でいるのか。頭の中、脳裏をよぎる想念は、いったいどういう想いがよぎっているのかと、よくよく観察することです。頭の中、脳裏をよぎる想念というのは、思おうとしなくても思っている想いです。これをジーッと、生命の奥から見ている自分の意識でい続ける。

○そうやって表面の自分を観察し続けていって、「これは決めつけだな」「それはこだわりだな」「それは執

着だな」っていうふうに見たらば、「守護霊様、こうやって気づかせていただいてありがとうございます。これは本当の私ではないので、持って行ってください」ってお願いをして、「世界人類が平和でありますように。私たちの天命が完うされますように」とやり続けることで、そのこだわりなり、決めつけなり、思い込みなり、執着なりっていうものが、手放せるようになってゆきます。

○それは白光の言葉でいえば、『消えてゆく姿で世界平和の祈り』です。消えてゆく姿で世界平和の祈りをベースに、根本に置きながら、毎日一瞬一瞬、一秒一秒、一分、十分、一時間、二時間、三時間と過ごしてゆきますと、どんどんどんどん、心の中のお掃除がはかどっていって、ますます生命の奥と直通した私たちになってゆきます。

○私たちはもう、みんな直通してるんです。（もっといえば、初めから直通している）「いや斎藤くん、そんなこと言うけど、私は直通してないよ」って思う方もいらっしゃるかも知れませんけど、直通しているんです。

○ただ、「そなん」っていう想いが出てこないだけです。もう直通しているので、ただ時間差があるだけなんです。「そんだったんだ」って、表面的な気づきが起こるまでのタイムラグっていうんですか、時間差があるだけなんですね。

○今日、気づく方もいるかもしれない。もうすでに、気づいてらっしゃる方もいるかもしれない。明日、気づく方がいらっしゃるかもしれない。1ヶ月後かもしれない。半年後かもしれない。1年、1年半後、もしかしたら年末ぐらいかもしれない。

○人それぞれ、「自分は生命の奥（宇宙神）と直通してたんだ」って、もう皆さん、どんどんとその自覚を深められてゆくように、この1年、なってゆくと思います。

○いつもいつも、私が思っていることは、「みんなが悟りを開くときが来ている」ということです。それを本当に思っています。

○一部の特別な人だけ、ごくごく一握りの人だけが神我一体になれるだなんてい、そんな昭和のような時代を今、私たちは生きていません。

○昭和の頃は仕方がありませんでした。みんな「五井先生、助けてください」って思う人ばかりだったから。でも今は、私たち、時々、痛い、つらい、苦しいっていうときに、「五井先生」って呼ぶことがあるかもしれませんけど、基本的には、「ありがとうございます」っていう、もうその感謝一念で生きていらっしゃる方が本当に今多いと思います。

○救ってもらおうとか助けてもらおうとか、そういう意識じゃなくって、自分が自分を助ける、自分が自分を育てる、自分が自分を磨き、高めあげる、深めてゆくっていうことを、皆さん、もうできている、もしくはできつつあるっていう状態の中に今、あるんだと思います。

○その自覚の深さっていうのは、神々さまの間では、別に問題にされていないんですね。本当にそうやって今を真剣に、一瞬一瞬、いのちを活かして生きているかどうかっていうことだけを、私たちは天から観察されています。

○宇宙人の人たちも観察していますし、救世の大光明の方たちも観察します。そのように向こうから観ていて、「この人はもうちょっと、あと一歩超えたらぐっと上がるな」っていうときに、ものすごい強い光を降ろしてくださいんですね。そうすると一気に引き上げられます。

○でも、なんにも努力も何もしないで、棚からぼた餅が落ちてくるのを待っていても、棚からぼた餅は落ちきませんし、引き上げていただく機会もやって来ないんですね。

○自分がそうなりたかったら、手を伸ばすとか、そこへ行くとかという行動をする。アクションを起こせば、必ずそのようになります。

○ちょっと話がずれますけど、果因説というものがあります。果因説というのは簡単な説明ですと、未来にこうありたい、こうなりたいっていう希望や理想をポンッて未来に投げたら、未来からドンブラコドンブラコと流れてきて、自分に近寄ってくるんですよっていう、そういう話でした。

○私、理屈っぽいんで、それってどういう状態でそうなってゆくんだろうなって考えてました。そうやって考えている間は、まったくわからなかったんです。こういうことが果因説なんだっていう気づきは、本当にここ数年の話です。

○未来に自分はこういうふうになりたい。例えば、1年後こうありたいと思ったとして、実際の自分の動きを観察すると、そうなるための行動をしているんです。そうなるための努力をしているんです。

○それがあるから、自分が画いた夢とか理想とか、そういうのが現実の自分に表われてくる、現実の自分のものになる。

○「こうなったらしいな」「ああなったらしいな」っていう希望だけを書いて、そこで立ち止まっていたらば、その希望は、残念ながら自分の現実とリンクしてこないんですね。

○いつも希望のまま、ずっと希望のまま。だからやっぱり、階段を一段一段登ってゆくように、もしくは例えば、公園へ行くのに800mの距離があるんだとしたら、その800mの距離を一步、一步、一步、一步と歩いてゆく。自転車に乗ってゆく人もいるかもしれません。自動車で行く人もいるかもしれませんけど、自分の体を動かして、そこへ実際に向かってゆく行動こそが、一番大切なんだと思っております。

○昭和37年ですかね。老子が五井先生のお体に降りてきて、五井先生の口ぶりがまったく変わってしまって、ものすごいきつい、厳しい物言いになったときのお話があります。

○本でいえば、『魂が大きく開くとき』っていうご著書に、そのお話が書いてあったと記憶しているんですけど、そのご著書は、その頃のお話がたくさん載っている本です。

○その頃、昭和37年から38年にかけて、地球はキューバ危機っていうんですか。第三次世界大戦の危機がありました。白光では、昭和37年6月1日に、宇宙子波動生命物理学五井研究所が開設されて、宇宙人と連携して、金星の科学を地球に降ろし、地球を大調和した星にしましょうという活動が始まった頃でした。

○そのときに、老子が五井先生の体を使ってお話をした中で、すべては覚えてないんですけど、私が今でもよく覚えていて、時々思い出しているのは、「やらなきゃ駄目！やらなきゃ駄目！やらなきゃ駄目！やること以外に何があるんだ！」っていう、あの厳しいお声です。

○その後に、「やりもしないでグダグダ、グダグダ言ってるような者は、うちにはいらないんだ！」っておっしゃっておられました。

○どんな努力でも、やってみることに意義があるのだと、私は思っております。

○縁が薄い神々や宇宙人の眼から見て、「あの子、なにをやってるんだろうな」って思われるようなことでさえも、必ず意味のあることなんです。失敗なんてものはないんです。

○失敗っていうのは、失敗だと思った人にだけ現われる現実です。言葉を変えますと、失敗っていうのは、失敗だと思った人が創り出した幻想なんです。だから、自分が失敗だと思わなければ、失敗なんてものはないんです。

○私も昔、10年以上前ですけど、後悔ばっかりして生きていました。「あのときにああしてたら」「あのときにこういう選択をしなかったらよかったのに」とか、「こうすればよかったのに」とか、グダグダ、グダグダと思っている時代がありました。

○でもそういうときは、未来に向かって歩いてないんですね。道を歩くことに例えたらよくわかると思うんですけど、体は後ろ向きになって、立ち止まっている。なんなら、後ろに向かって、過去に向かって逆に歩いてゆくみたいなそういう状態。それでは、輝かしい未来が作られることはない。

○でも、今ここにいらっしゃるような方々は、皆さんもそういう段階は卒業されて、本当に未来に希望しかない、明るい想いしか抱いていないっていう方々だと思います。

○私、いつも本当は、ワクワクして生きてるんです。でも表面には、表わさないようにしています。なぜならば、このワクワクしている気持ちを、一般の世間の人と共有しようとしたら、「この人は頭おかしいんじゃないの」って思われかねない。非常識だと捉えられかねない内容だからです。

○私がワクワクしているというのは、もうこれから地球は、ものすごく立派な星になってゆく。宇宙のもうすでに神靈文明に入っている金星とか、火星とか、水星とか、木星とか、土星とか、もしくは太陽系以外の星々とかと交流する、そういう時代がもうまもなくそこまで来ているということが、当たり前のこととして思えるからです。

○ただ、そうなる前の段階で、外れた骨を元に戻そうとするような痛みが、地球人類の運命の上に現われるかもしれない。どれぐらいの規模で起こるかは、わかりません。昔、何回も地球であったように、大地が全部海の底に沈んで、新しい大地が隆起するようなことがあるかもしれないですし、隕石が落ちてくるとか、第三次世界大戦になるとか、いろんな未来の世界線が、現時点で幾つも幾つもあるんですね。

○どの未来を私たちの現実に降ろすかは、今生きている私たち一人一人が、一瞬一瞬、何を思い、何を語り、どういう行動をしながら生きているかにかかっています。

○ですから、私たちが、守護霊・守護神の眼から見て、救世の大光明や宇宙天使群の方々から観て、「この子たちがいれば大丈夫だね」「この人たちがいれば大丈夫だね」って思っていただけるような想念・言動・行為で、一秒一秒、一瞬一瞬を生きていさえすれば、明るい未来、みんなが仲良く調和して争いもない、競争原理の社会でもない、まして戦争なんてもうまったく一つのことよっていうような、そういう時代が来ると思います。

○それは、3年後なのか、5年後なのか、10年後なのか、20年後なのか、もっと先の30年、50年先なのか、わからないですけれども、私たちがそういう未来を掴んで、今この瞬間、そういう世界に生きていることで、世界人類一人一人に道を開くんだと思っております。

○私たち、こうやってここに今、40人の方がいらっしゃいますけど、40人いたら40通りの人格、性格、性質があると思います。生きてきた背景、バックボーン、過去も違います。それを過去世にまでたどったらさらに違います。一人として同じ人はいない。

○その一人として同じ人はいない私たちが、神聖復活を本当に果たし、本当に神聖を甦らせてゆく、神我一体になってゆく、悟りを開いてゆくことで、私たちに近い性質の世界人類がいっぱいいるんですけど、私たちの神聖復活の体験が、その人たちが神聖を甦らせる助けになるんです。

○例えば短気な人が神聖復活を果たらしたら、それは世界中の短気な人に道を開くことになります。病気がちな人が病気にとらわれないで、明るく生きる心、感謝一念の心境を自分のものにしたらば、それは世界中の同じ境遇の方々に、明るい生き方、神聖復活した輝かしい生き方をする道を開いていることになるん

ですね。

○なので、本当に一人一人が大切で、大事な存在です。救世の大光明の皆様、宇宙天使群の皆様は、この肉体界で生きて、祈り、印を組んでいる私たちを、どういうふうにご覧になっているんだろうなって思つたことがありました。

○去年の年末でしたでしょうか？そうしたときに、私がこういう問い合わせを発すると、問い合わせが終わる前に答えが入ってくる、降りてくる、ひらめいてくるんですけど、一言で表現すると、「宝物」と伝わってきました。

○そのように大事な大事な人たちだから、時々、五井先生も昌美先生のお体を使っておっしゃいますよね。「あなた方が幸せにならないで、誰が幸せになるんだ」って。「私はあなた方を幸せにせんにはおかないと。絶対にあなた方を幸せにする。なぜなら、あなた方は、何年も何十年も、世界平和の祈りを祈り、神聖復活の印を組んでくれているからだ」という響きが伝わってきました。

○もう、ほんとうに大事にされている。光のシールドで守られてるんですね、私たちは。

○だから、誰かが私たちに対して悪意を持って関わってきても、そのことで私たちの心は痛まない。もし痛むことがあったとしたら、それは守護霊様がちょうどいい機会だから、この子の中にあるこの思い込み、こだわりの性質をここで表わして、消してしまおうって、表わして消そうとしてくださっている姿です。

○それから、昔から五井先生がおっしゃっておられますけれど、『把われない』ということが、これから的新しい時代の当たり前の意識になっていくと思っております。

○把われない、決め付けない、こだわらない、執着しない。サラサラ、サラサラと、心の中に小川が流れているような感じで、その小川にもう想いをポンポン、ポンポンと、笹舟か何かに乗せて、サラサラっと流してしまう。

○そうすると、想いがいつまでも心の中に残って、何か引っかかるっていうことがない。ただ、ご家族の間での問題っていうのは、どんなに気にしようしなくっても、相手が年がら年中、目の前にいるもんですから、なかなかね、把われないようにしようと思ってもね、っていうところはあると思うんですけど、それは一番ご縁が深くて、消えてゆく姿をやるのに、一番最適な人が目の前にいるんだと思って、もう練習だと思ってやっていきますと、だんだんと、こだわりが消えてゆくと思います。

○何ヶ月か前、この1ヶ月か、もしくは何ヶ月か前か、そういう旦那さんに対するわだかまりの想いを超えたっていうお話を聞きました。素晴らしいなと思いました。「すごいですね」って。どれだけ努力されてきたか。

○でも、どんな努力も、何やってもうまくいかないな、これも駄目、あれも駄目、何やっても駄目、どうやったらいいんだろうっていう状況の中にあってさえも、明るい未来が来ることを諦めないで生きていますと、「もうこれだけ頑張ったんだから、もういいよね」って、守護霊・守護神さまがハンコを押してくださいって、大きな光を与えてくださるときが来ます。

○そうすると、一気に状況が変わります。それは目の前の相手に対する想いが変わるので。目の前の相手と離婚することになるのか。違う新しい相手が目の前に現われてくるのか。それは、人それぞれそうしなければいけないという決まりはないんですけど、何らかの形で、新しい展開が見えてくるようになると思います。

○はい。では、今日はそういうことで終わりにしたいと思います。今日の前半に、新しいやり方の公開リ

ハーサルをさせていただいたんですけども、14秒目を閉じてお祈りするという部分を7秒にしてみたんですけど、そんなに大差なく時間も縮まらなかったということで、印のスピードを以前通りの4秒ペースで、かつお祈りの時間を7秒でいくと、例えば8時58分から話し始めて、9時32分か33分には終わるのではないかという話になりました。(これにつきましては、その後も変更がありました)

○最後に印を3回、組みたいと思います。この3回を4秒ペースで行ないたいと思います。「古賀さん、カウントをお願いします」「はい、わかりました」

<神聖復活の印×3回>

「人類の神聖復活、大成就。人類の神聖復活、大成就。」

○ありがとうございます。はい。それでは2025年最初の勉強会をこれで終わりにしたいと思います。永野さん、行天さん、鎌田さんは退室しましたけど、古賀さん、ご協力、ありがとうございました。

○はい、それでは、皆様のマイクをオンにします。アンミュートします。ありがとうございました。本日の勉強会は、これで終わりにいたします。ありがとうございました。